

施設実習に関する研究動向の分析

高 橋 均*

(2014年11月12日 受理)

Analysis of Research Trends on Practices in Welfare Facilities

Hitoshi TAKAHASHI*

Research trends on practices in welfare facilities in nursery teacher education were investigated. Results indicated that words such as student, guidance, evaluation, discussion, and consciousness occurred in titles and keywords with a high frequency. Moreover, the analysis of keywords maps indicated that keywords such as questionnaire, present conditions, students, and evaluation were connecting points related to other keywords.

Keywords: Practices in Welfare Facilities 施設実習, Nursery Teacher 保育士, Student 学生

1. はじめに

本研究の目的は、保育士養成における施設実習に関する研究の動向を分析し、考察することである。

施設実習は保育所実習とともに重要である。施設実習は「学生が保育士の幅広い専門性を理解する体験であり、職業選択として施設で働く保育士をイメージする重要な機会でもある。」(橋本, 2013)とも言われている。

これまでの施設実習に関する研究では、「学生たちの内面的成長には眼を見張るものがある。」(国枝, 2009)等の実習成果に関する指摘がされている一方で、課題も指摘されている。例えば、施設実習前の学生について国枝(2009)は、「実習前には不安も大きく、指導者にとっては如何にそれを軽減させ、施設についての理解を深めさせるかが課題となる。」と述べている。また、施設実習後の学生について宮崎・吉川・宮越・武田・李(2010)は、「少数ながら施設実習体験後にかえってネガティブなイメージを持つ者がいる。」と述べているのである。

このように、重要であるが課題も指摘されている施設実習に関する研究の動向を分析することは、施設実習に関する研究の発展と、その成果を生かした指導の充実につながると考えられる。

本研究では、施設実習に関する研究の動向の分析にあたり、テキストマイニングの方法を用いて検討した。

2. 方法

文献データベース CiNii にある施設実習に関する研究の題目を分析することとした。

CiNii において「施設実習 保育」、「保育実習 施設」をキーワードに検索し、重複する論文を除外した。検索結果として、1977年から2014年までの156の論文が抽出された。

分析ソフトとして、トレンドサーチ2008(社会情報サービス)を用いた。分析にあたり、井上・いとう(2011)や渡部(2011)を参考にした。

3. 結果と考察

出現頻度

表1はキーワードの出現頻度の1位から15位までを表示したものであり、図1は図示したものである。表1、図1から明らかなように、論文を検索した際にキーワードに含まれていた「実習」、「施設」、「保育」、および接続のワード以外では、「学生」、「指導」、「評価」、「考察」、「意識」などが多かった。このことから、施設実習に関する研究では、実習そのものだけでなく、指導面も関心を持って研究されていることが分かる。

「保育所」のキーワードの出現頻度も多い。施設実習を考える上でも、保育所や保育所実習の視点も含めて考えることも重要であろう。

表2はキーワードの出現頻度の17位から30位を表示し

* 広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科准教授

たものである。表2から明らかなように、「短期大学」の出現頻度は12であった。保育士養成校の中には短期大学も大学もあり、研究題目に明示するほど、重要な特性と考えられていることを表していると思われる。また、「児童福祉施設」の出現頻度は10であった。

表3はキーワードの出現頻度の32位から45位、表4は52位（出現頻度4のもの）、表5は68位（出現頻度3のもの）、表6、表7は97位（出現頻度2のもの）を表示したものである。

これらは、出現頻度は少ないものの、「意欲」、「協働」、「実習日誌」、「自己効力感」など、施設実習で重要と考え

られるキーワードが含まれている。

また、「児童養護施設」、「居住型」のキーワードも含まれている。これは、児童養護施設、居住型の施設での実習について関心が深いことを表していると考えられる。

さらに、「気付く」のキーワードも含まれている。施設実習において気づきは重要である。曹（2014）においても、日常業務や観察・記録・ケース検討などを援助技術として修得し、そこで培った学びや気づきを真摯に受けとめることが重要で、想像力と創造力を養うことを実習生に求めている。

「ストレス」、「ストレスマネジメント教育」のキーワー

表1 キーワードの出現頻度 1位～15位

順位	キーワード	出現頻度
1	実習	224
2	施設	136
3	保育	132
4	おく	80
5	学生	56
6	関する	49
7	指導	30
8	評価	27
9	考察	25
9	意識	25
11	課題	21
11	保育所	21
13	研究	17
14	アンケート	16
15	保育士養成課程	15
15	調査	15

表2 キーワードの出現頻度 17位～30位

順位	キーワード	出現頻度
17	現状	14
17	中心	14
19	通す	13
20	士養成	12
20	自己	12
20	短期大学	12
20	福祉施設実習	12
20	比較	12
25	対	11
25	変化	11
27	検討	10
27	その	10
27	児童福祉施設	10
30	教育	9
30	事後	9

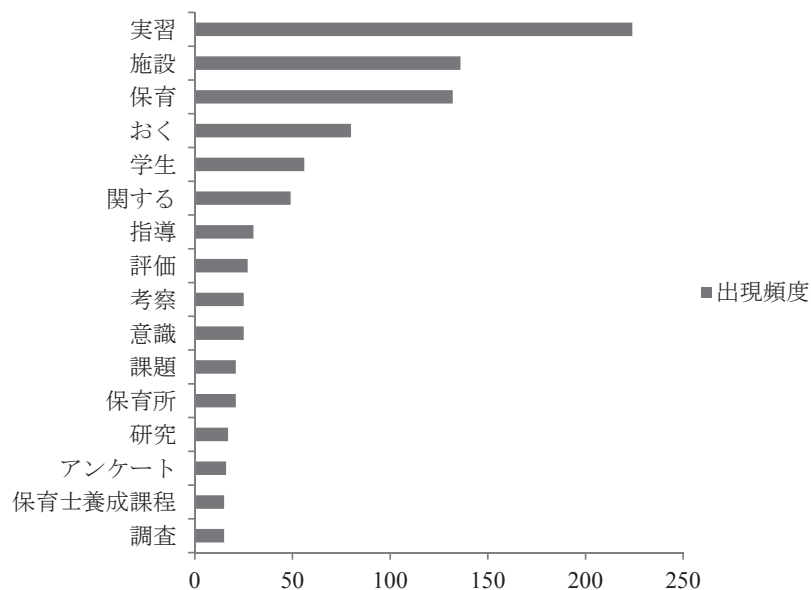


図1 キーワードの出現頻度 1位～15位

表3 キーワードの出現頻度 32位～45位

順位	キーワード	出現頻度
32	意義	8
32	イメージ	8
34	在り方	7
34	分析	7
34	科学生	7
34	前後	7
34	内容	7
39	体験	6
39	終える	6
39	保育士養成校	6
39	効果	6
39	見えて	6
39	社会福祉	6
45	実態	5
45	II	5
45	援助	5
45	士	5
45	児童	5
45	実践	5
45	児	5

表4 キーワードの出現頻度 52位

順位	キーワード	出現頻度
52	意欲	4
52	学び	4
52	協働	4
52	目差す	4
52	視点	4
52	実習日誌	4
52	連携	4
52	養成	4
52	現場	4
52	する	4
52	自己効力感	4
52	及ぼす	4
52	幼稚園	4
52	変容	4
52	報告	4
52	特集	4

ドも含まれている。ストレスに対処する力はどうのような場面においても重要であるため、ストレスをキーワードとする研究は必要であろう。

「ミニマムスタンダード」のキーワードも含まれている。『保育実習指導のミニマムスタンダード』（全国保育士養成協議会，2007）の発行以来，保育実習において重要なテーマであり，さらなる研究が期待されるところで

表5 キーワードの出現頻度 68位

順位	キーワード	出現頻度
68	こころみる	3
68	達成感	3
68	人権	3
68	学習	3
68	児童養護施設	3
68	本学	3
68	幼児教育学	3
68	意味	3
68	平成	3
68	養成校	3
68	理解	3
68	成果	3
68	気付く	3
68	障害者支援	3
68	士養成機関	3
68	向ける	3
68	事前	3
68	スーパービジョン	3
68	ストレス	3
68	活用	3
68	者	3
68	障害	3
68	取り組む	3
68	子ども	3
68	資質	3
68	関連性	3
68	関連	3
68	取り組み	3
68	体制化	3

ある。「九州」というキーワードも、「ミニマムスタンダード」と関連して，実習指導や評価票の研究を表している。施設実習の研究に熱心に取り組む地域であることが分かる。

その他にも，出現頻度1の中には，「自閉症」，「コミュニケーション」，「規範」など，施設実習と深く関わるキーワードが含まれていた。施設実習では，障がいに関する知識や理解とともに，社会において他者とコミュニケーションをとる力や規範の力は重要である。このことは，中山・小松（2000）の調査において，施設から学生に最も求められていたのが社会常識を身につけておくことであったことから分かる。

図2はキーワードのマップである。この図2を見ることによってキーワードの関連性が分かる。「アンケート」，「現状」，「学生」，「評価」などのキーワードは，他のキーワードを連結するポイントのようにになっている。

表6 キーワードの出現頻度 97位

順位	キーワード	出現頻度
97	内面的成長	2
97	ストレスマネジメント教育	2
97	系短大生	2
97	結果	2
97	効果的	2
97	差異	2
97	カリキュラム	2
97	期待感	2
97	不安感	2
97	かかわる	2
97	作成	2
97	二年生	2
97	不安	2
97	居住型	2
97	第3報	2
97	機能	2
97	向上	2
97	手がかり	2
97	保母	2
97	問題	2
97	みる	2
97	4年制大学	2
97	専門性	2
97	巡る	2
97	学ぶ	2
97	体制	2
97	提言	2

表7 キーワードの出現頻度 97位 (続き)

順位	キーワード	出現頻度
97	記録	2
97	士資格	2
97	持つ	2
97	活動	2
97	生命	2
97	影響	2
97	ミニマムスタンダード	2
97	形成	2
97	就業自己	2
97	I	2
97	III	2
97	プロセス	2
97	方法	2
97	就職	2
97	流れる	2
97	知的	2
97	技術	2
97	九州	2
97	障がい	2
97	昭和	2
97	偏見	2
97	養成課程	2
97	授業	2
97	価値	2
97	必要	2
97	特別	2
97	ある	2

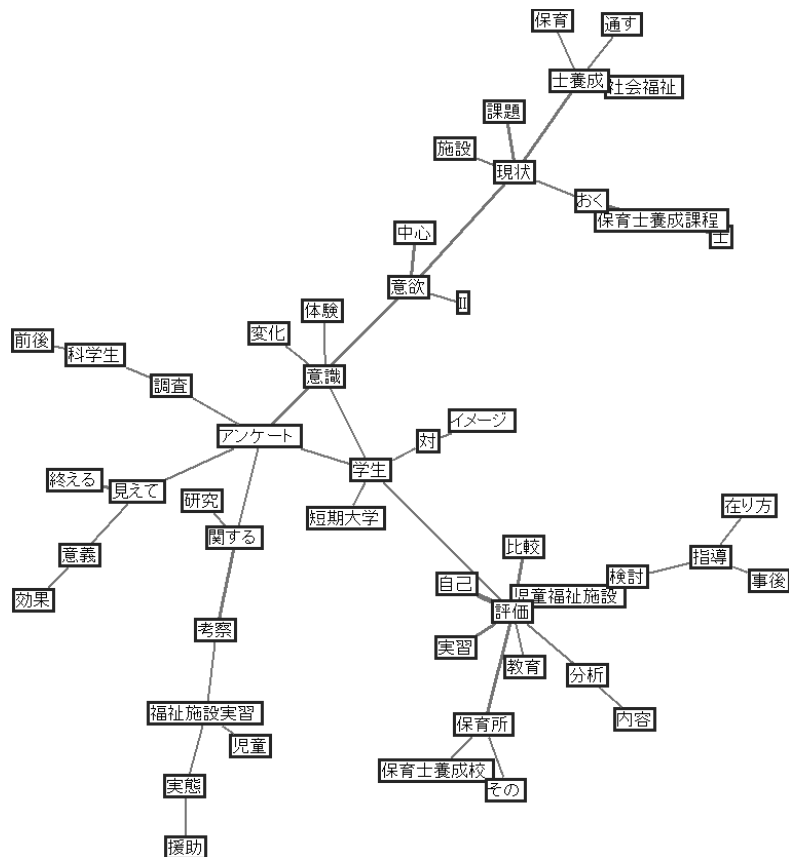


図2 キーワードの関連マップ

「アンケート」は研究方法として、「現状」、「学生」、「評価」は研究テーマとして重要になっていると考えられる。

4. まとめ

先述したように、施設実習に関する研究題目中のキーワードの出現頻度は「学生」、「指導」、「評価」、「考察」、「意識」などが多かった。しかし、出現頻度の少ないキーワードの中にも施設実習において重要なものが含まれている。本研究で出現頻度の少なかったキーワードを含む研究の発展も期待される。

また、関連マップの分析では「アンケート」、「現状」、「学生」、「評価」などのキーワードが、他のキーワードを連結するポイントのようになっていることが明らかになった。アンケートを通じた実態解明、より客観的な結果をふまえた研究は今後とも必要と思われる。また、評価は、実習の成果とも関わるものであり、今後为中心的に研究されていくことが望まれると思われる。

引用文献

橋本好広 (2013). 保育士養成における施設実習研究の現状について 近畿大学豊岡短期大学論集, 10, 27-32.

井上孝代・いとうたけひこ (2011). ミックス法としてのPAC分析—テキストマイニングによる現状の展望, および今後の課題 内藤哲雄・井上孝代・いとうたけひこ・岸太一 (編) PAC 分析研究・実践集2 ナカニシヤ出版 pp. 139-156.

国枝幸子 (2009). 保育科短期大学の施設実習における学生の内面的成長について 聖園学園短期大学研究紀要, 39, 39-48.

宮崎隆穂・吉川明守・宮越敏夫・武田誠一・李 在憶 (2010). 保育系短大生における施設実習に関する危険因子同定の試み 新潟青陵大学短期大学部研究報告, 40, 129-134.

中山正雄・小松 歩 (2000). 保育士資格取得の為の児童福祉施設実習のあり方についての調査研究報告 白梅学園短期大学 教育・福祉センター研究年報, 5, 119-132.

曹 徳善 (2014). 児童養護施設 民秋 言・安藤和彦・米谷光弘・中山正雄 (編著) 新 保育ライブラリ 保育の現場を知る 施設実習 [新版] pp. 109-112.

渡部和雄 (2011). 電子マネーの地域グループ別普及要因と普及促進策 東京都市大学環境情報学部情報メディアセンタージャーナル, 12, 23-31.

全国保育士養成協議会 (編) (2007). 保育実習指導のミニマムスタンダード —現場と養成校が協働して保育士を育てる— 北大路書房.